
2019年度 入社予定者の 「キリン堂 内定式」を開催しました

株式会社キリン堂ホールディングスの子会社で、関西を中心に国内365店舗の薬局・ドラッグストアを展開する株式会社キリン堂（本社：大阪市淀川区、社長 寺西豊彦）は、10月7日、2019年4月入社予定者68名を迎え、内定式を開催しました。

キリン堂グループの「人」を中心とした経営の考えに基づき、採用ステップを通じて、様々な情報を発信し、一人ひとりと丁寧に向き合ったうえでのマッチングという、出逢いを大切にしたい採用活動を展開してきました。内定式では、内定証書を授与するだけでなく、希望や前進という意味を持つガーベラの花を、社長から一人ひとりの内定者へ渡して「出逢いへの感謝」を表しました。



△ 内定者集合写真

本件に関する報道関係からのお問い合わせ先

株式会社キリン堂ホールディングス 経営企画部 IR・広報室（担当：戸次、塚越）
TEL：06-6394-0450 FAX：06-6394-0057 営業時間 平日）9:00～18:00、土日祝）休み
E-MAIL：info@ir.kirindo-hd.co.jp

【社長 内定者への祝辞（要旨）】

みなさんの就職活動がまさに大詰めであった6月、7月に、この関西で大阪府北部地震、西日本豪雨という2つの大災害が起きました。また、この夏の猛烈な暑さ、9月には台風21号が西日本を直撃し、大きな災害が続きました。中には、ご自宅や家族が大変な状況になった方もいらっしゃるかと思います。被害に遭われた皆さまに心よりお見舞い申し上げます。

当社でも、大阪を中心とした店舗や高槻にある物流センターが被害を受けました。大阪府北部地震においては、店舗では地震当日から「地域のお客様のために」とスタッフ総出で店内の片付けなどに奔走し、開店にこぎつけました。中には被災したご自身の家の片付けもしないまま、店舗に駆けつけて尽力されたパートナー社員の方もありました。

後日、お客様から次のようなお手紙をいただきました。

今回の大阪地震により、私の住んでいる地域も大きい地震の被害に遭いました。幸い断水や電気、ガスのストップなどはありませんでしたが、今後の事を考えるととても怖くなり、知り合いと共に避難に必要な物を買に行きました。

いくつもの店が地震のため閉店をしている中、キリン堂さんは店を開け、水や食料、薬を売ってくださいました。店内はキレイに見えましたが、よく見ると商品が棚の中でバラバラになっているところがありました。最低限の片づけをして開店してくださったのだなと思います。

店の中は自分と同じように、水や食料を買おうといつもより多くの人で賑わっていました。そんな大変な状況にも関わらず、キリン堂〇〇店の店員さん達は爽やかな笑顔で対応してくれました。きっと家庭のことや今後の地震のことなど、心配なことだらけだったはずなのに、「地震の時にすみません」と言った私に、「いいえ、大丈夫でしたか？」と逆にこちらにお気遣いいただきました。いつもと変わらない店員さん達の笑顔に出会えて、その時とても安心感を覚えました。

いつも心地よい接客をしてくださり本当にありがとうございます。これからも変わらずキリン堂さんを利用したいと思っています。

このように、決して満足な通常営業とは言えない状況であったにもかかわらず、お客様よりお褒めの言葉をいただきました。今回のことを通じて、改めて本当に地域のためになることは何か？を考えさせられました。

有事では「衣・食・住」と「健康」の確保が最優先です。ドラッグストアでも調剤であっても、そこにキリン堂が果たす役割は大きいと考えています。前述のお手紙にあったように、キリン堂が物心両面からお客様を支えることができる存在になるためには、「人」の力、「人間力」が重要だと考えています。

今や日本は、世界で最も超少子高齢化が進み、一方で人工知能 AI や IoT を活用せざるを得ない社会です。私たちの生活も変化していますが、キリン堂も時代に適応したテクノロジーを取り入れながら「人にしかできない価値の創造」を大事にしています。お客様、患者さんへ新しい価値を提案し続け、「ま

た来店したい」という想いに心を揺り動かすのは、AIではなく「人」の力です。麒麟堂は「人」が最も大事だと考え、『「人」を中心とした経営』を進めていきます。「人」の成長なくして、企業の成長はなく、社員の満足なくしてお客様、患者さんの満足はないといえます。お客様、患者さんに寄り添い、健康な人により健康を提案する「未病」を軸として、愛をもって接することで、愛される店舗や薬局に進化することを目指します。

「未病対策」の取組みは、健康面から地域のお客様、患者さんの幸せを考えることだと考えています。「医食同源」という言葉もある通り、健康であるために食事を提案することが重要であると考えます。食べたもので身体はつくられます。しかし病気でなければ毎日の食事を見直すことはほとんどありません。現代の日本は飽食の時代と言われていますが、自覚のないまま、健康とは程遠い食事となっているのが現実です。管理栄養士の方々には今後、そこでの活躍を期待しています。医薬品については薬剤師、食事については管理栄養士、また登録販売者も同じく、プロとしてお客様のお悩みに応えるべく、常に学び、成長していただきたいと考えています。

皆さんにも麒麟堂の一社員として、地域社会にとってなくてはならない人財に育っていただきたいと願っています。

以上